

第76回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録(案)

I. 日 時：2016年6月3日(金) 13時30分～15時10分

II. 場 所：日本機械学会 第1会議室

III. 出席者：(委員21名中、出席者18名(うち代理1名)、欠席者3名)

三原(東北大)、飯田(東電FP)、藤田(MHPS)、三好(川崎重工)、天野(早大)、
佐藤(発電技検)、長谷川(新日鐵住金)、岡(富士電機)、堀(経産省)、
長尾(中部電力)、松田(HSB ジャパン)、五代儀(火原協)、古屋(大口自家懇)、
屋口(電中研)、島田(東芝)、大橋(IHI)、長塚(電源開発)

代理者：伊藤(NIMS：木村)

欠席者：沖(電気協会)、桑野(関電)、野井(ロイド)

オブザーバ：樺田(MHPS)、尾山(東電FP)

事務局：原

IV. 配付資料

- 76-1 第75回火力専門委員会議事録(案)
- 76-2 専門委員会・分科会委員案
- 76-3 第77回規格委員会議事録(案)
- 76-4-1 材料分科会報告
- 76-4-2 構造分科会報告
- 76-4-3 溶接分科会報告
- 76-4-4 配管減肉分科会報告
- 76-5 各分科会審議履歴表
- 76-6 規格委書面投票「火力設備配管減肉管理技術規格の改訂案」結果報告
- 76-7 「火力設備配管減肉管理技術規格の改訂案」書面投票意見対応と改訂案
- 76-8 欠番
- 76-9 質疑応答への質問に対する回答案

V. 議事

1. 前回議事録確認 [76-1]

前回議事録(案)の確認を行ない、議事録案は承認された。

○修正箇所 P3 (2) 4) 配管減肉分科会報告

・(H27.9.11) → (H28.1.22)

・第13回 このままとする。(委員会後、この記載で間違いないことを確認した。)

2. 専門委員会、分科会の委員・役員承認 [76-2]

(1) 火力専門委員会委員の推薦承認

火力専門委員会における以下の再任候補が報告された。採決の結果、出席委員全員の賛成により次回規格委員会に推薦することが承認された。

- ・火力専門委員会：（再任） 野井委員（ロイド・レジスター・ジャパン）
岡委員（富士電機）

(2) 分科会委員の承認

各分科会の以下の再任意向および役員の互選による推薦が報告された。採決を行った結果、出席委員全員の賛成により承認された。

- ・材料分科会：（新任候補）なし
（退任） なし
（再任） 俣野委員、森委員
- ・構造分科会：（新任候補）野呂友祐氏（富士電機）
（退任） 小高委員、黒板委員
（再任） 西野委員(副主査)
- ・溶接分科会：（新任候補）なし
（退任） なし
（再任） 山下委員、水谷委員
- ・配管減肉分科会（新任候補） 今村佳広氏（MHP S）
（退任） 近藤委員
（再任） 朝倉委員、増田委員

3. 報告事項

(1) 発電用設備規格委員会報告

[76-3]

第77回規格委員会の議事内容のうち、火力に関連する内容が報告された。主な事項は以下のとおり。

○火力専門委員会報告

○発電用火力設備規格に関する審議

- ・火力設備配管減肉管理技術規格の改訂、書面投票実施の提案・審議・承認。
- ・火力設備規格基本規定(2015年追補)の公衆審査版からの変更の提案・審議・承認。

○その他報告

- ・メール審議実施要領の意見対応、担当チェッカー制度導入の意見対応・・・いずれも一部委員会で反対意見があり、意見対応中であることが報告された。
- ・配管減肉管理に関する規格(2016年版)の全文チェックによる修正案の提案・審議・承認。

(2) 分科会報告

1) 材料分科会報告

[76-4-1]

伊藤材料分科会主査から第81回分科会（H28.5.19）の議事内容が報告された。主な

内容は以下のとおり。

- 第 29 回材料専門委員会(3/10)報告・・・SN 材の許容値の策定状況、Su,Sy 値策定のための手順書案の策定状況の報告
- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況
 - ・JIS 材については、JIS B8267 の引用年版を 2008 年から 2015 年に変更。
 - ・J 火材は、引続き J は取らずに J 火材のままとするなどを確認。

(質疑)

- ASTM での高クロム鋼の強度見直しに関する検討状況の紹介とあるが、具体的にはどのような内容か。
 - 9Cr 鋼に関して、ASME よりも ASTM が先行して EPRI のガイドラインの推奨成分範囲をベースにした、Class2 の規格化の検討が進んでいる。
- 原子力専門委員会からの依頼事項として、材料専門委員会で SN 材の規格化を検討中とのことだが、火力としてこの材料を取り入れることを考えているのか。
 - SS 材の代わりとして取り入れることを今後検討していく予定である。

2) 構造分科会報告

[76-4-2]

飯田構造分科会主査から第 89 回分科会（H28.4.26）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 他分科会に係る残件の確認(ASME 新規材料の取入れ、用語の使い分け他)
- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況。
- 今後の作業の進め方(レビュー票未審議箇所・要検討箇所の確認、JIS 引用における最新版の取入れ、レビュー票ダブルチェックの進め方)

3) 溶接分科会報告

[76-4-3]

樺田溶接分科会副主査から第 70 回分科会（H28.4.20）の議事内容が報告された。

主な内容は以下のとおり。

- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況
- レビュー票のダブルチェックの具体的な進め方、留意点の確認
- 規格活用のための意見交換の内容紹介と今後の対応

4) 配管減肉分科会報告

[76-4-4]

尾山配管減肉分科会主査から第 14 回配管減肉分科会（H28.4.27）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 規格委員会書面投票 No.330 における書面投票意見対応案と意見対応による規格修正案に関する審議状況の報告。
- 配管減肉に関する事例の紹介
- 質疑応答への質問に対する回答案の審議

(3) 発電用設備規格委員会書面投票 No.330 の投票結果報告

[76-6]

発電用設備規格委員会書面投票 No.330 (「火力設備配管減肉管理技術規格の改訂案」の投票結果が報告された。(可決))

4. 審議事項

[76-7]

(1) 火力設備配管減肉管理技術規格改訂案の規格委員会書面投票 No.330 の意見対応と意見対応による改訂案について

配管減肉分科会尾山主査から、No.330 の書面投票意見対応結果について報告があった。続いて、意見対応による規格修正案の提案があり、審議の結果、修正内容は編集上の修正であり修正内容が妥当であることが、出席委員全員の賛成により承認された。委員からの意見による修正箇所および質疑は以下のとおり。

○本文 2 ページ上部に記載の JIS のリストは、「・」の位置が 1 ヶ所ずれているので、修正した方が良い。

→ 修正します。

○提案資料の表紙は、「・・・改訂案の・・・意見対応による改訂案」となっているが、「・・・改訂案の・・・意見対応による修正案」とすべき。

→ 修正します。(計 5 ヶ所)

○本文 39 ページの試験員の要件について、条件が and から or に変わっているので、これは今回の改訂において技術的な要求事項が変更になったのか。

→この部分は今回の改訂において追加した部分で、表現を適正化したものであるので、今回の改訂において要求事項を変更したということではない。

(2) 「火力設備配管減肉管理技術規格(TB1-2009)」に対する質問への回答

[76-9]

配管減肉分科会尾山主査から、質問に対する回答案について説明があり、審議の結果質問文および回答を以下のとおり修正して回答することが、出席員全員の賛成により承認された。

<修正内容>

○質問文 配管の肉厚 → 配管の設計肉厚

○回答 「解釈してよい。」のみとする。

(3) その他

○委員からの質問

日本機械学会の発電用火力設備規格基本規定(2012 年版(2015 年追補を含む))が、発電用火力設備の技術基準の解釈に取り入れられたが、それ以降の規格の販売・利用状況、規格活用に向けた事務局での取り組みなどについて説明願いたい。

- ・規格の販売状況については、基本規定（2012 年版）は発行以降年間 10 数冊の売り上げであったが、経済産業省のパブコメ以降 2015 年度は 2 ヶ月で 20 数冊、2016 年度も既に 10 数冊売れている。規格販売状況については、次回の火力専門委員会で報告したい。
- ・規格の利用については、この規格を使った火力発電所の建設計画は聞いていない。容量は小さいが ASME 規格で設計製作したボイラーを、本規格により技術基準への適合を考えている事例については、何件か問合せが来ている。
 - ・規格の活用については、溶接分科会が中心になって検討しているので、他分科会と連携を取って本検討を進めていく予定。

○委員からのコメント

これは他の組織における例であるが、規格に関する質問等に全部対応しているうちに、質問が多量に来て収拾が付かなくなってしまった事例があった。質問、問合せ等については、なんでも対応するのではなく、キチンと仕分けをして対応した方がよい。

VI. 次回開催予定

日 時：2016 年 8 月 24 日（水） 13:30～17:00

場 所：日本機械学会 第 1 会議室